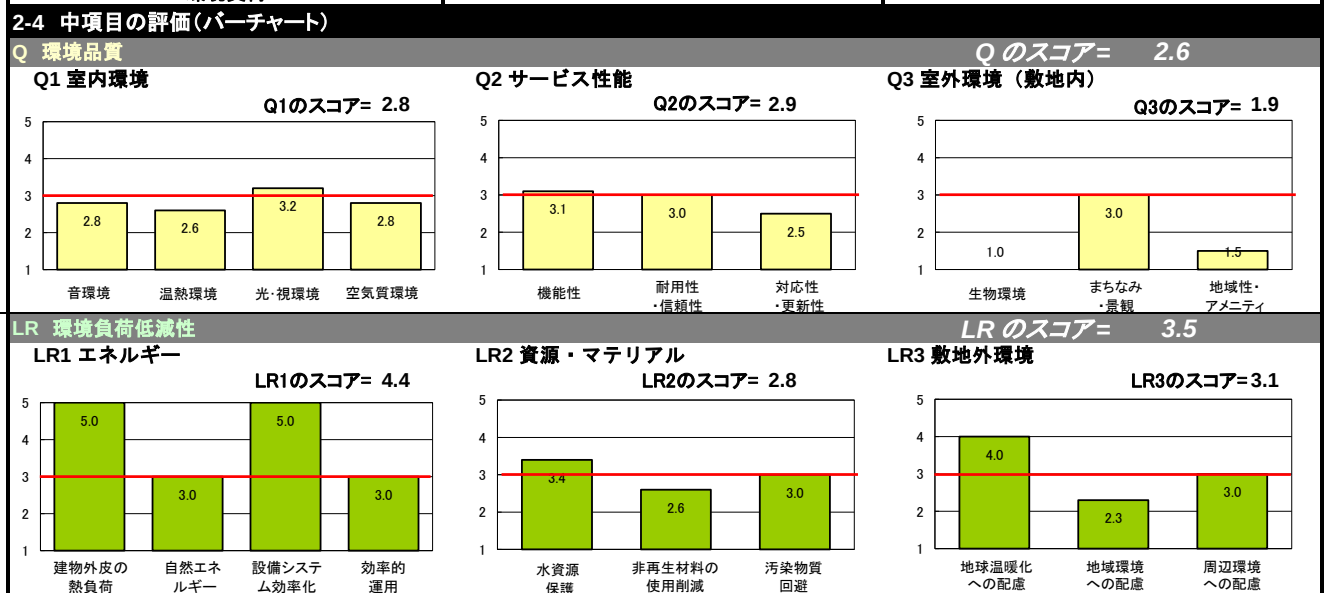
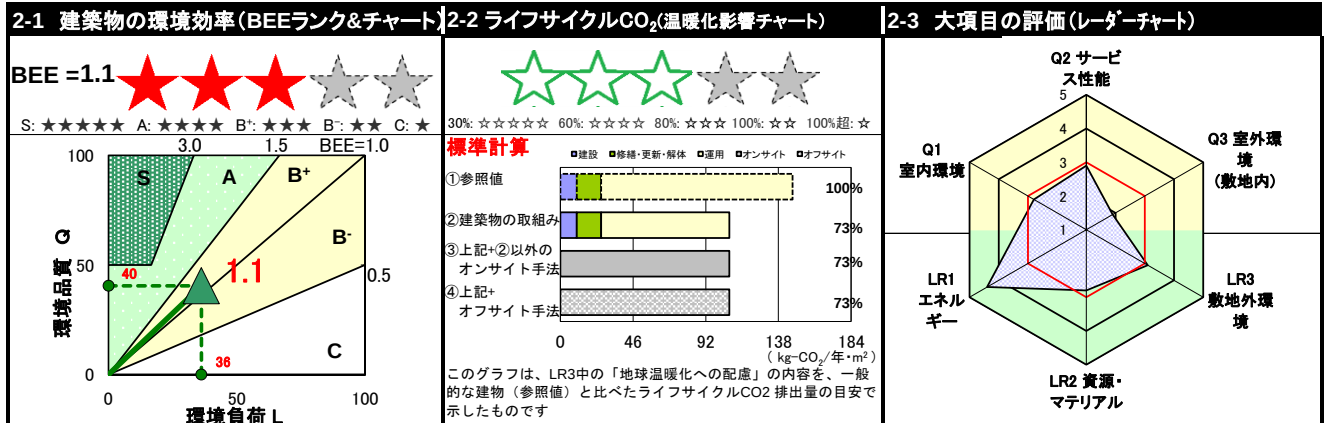


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂、その後の改訂は評価結果に反映されません) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ココファン徳重 新築工事	階数	地上4階
建設地	愛知県名古屋市緑区徳重5丁目407番、408番、409番、410番	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定	評価の実施日	2025年7月28日
敷地面積	1,585 m ²	作成者	
建築面積	759 m ²	確認日	2025年7月28日
延床面積	2,299 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
建物については一次エネルギー消費量BEImが低くなるように省エネ性能に配慮すると共に将来の更新性に配慮した。また、敷地内には緑地を設け、周辺環境に配慮した。		特に無し。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
T-2のサッシを使用することで室内環境に配慮した。	給水・排水、通信の将来への更新性に配慮した。	敷地周囲に緑地を配置し、周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
省エネ性能を考慮し、空調設備や照明設備の省エネ性能に配慮した。また、断熱材にウレタンフォームを採用し、断熱性能を高めるように計画した。	内装の下地にはLGSを採用し、PS・MBを各所に設ける事で躯体と内装材、設備の分別の容易さに配慮した。	特に無し。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ココファン徳重 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。